

すずらん通信

12月号 令和7年12月10日発行

先日、ホームで5年間生活下さったH様のお看取りをさせて頂きました。この1年は思うようにお食事が喉を通らなくなられて、秋頃から主治医様、看護師様、訪問看護ステーションの方々にも支えられながらのベット上での生活へと変わっていかれました。食事や水分がお口から摂って頂くことができなくなられ、眠って見える時間が長くなり・・・お声がけをしても目が開くことがない日が多くなっていました。そんなある日、いつものように「〇〇さん、おはようございます」訪室すると両目を開きどこかを見てみえるご様子。その日、何度か訪室し、その度に目が開いていました。翌日もでした。私も他の職員もちょっと不思議な感覚を持ちながら「沢山お話してあげましょうね」と。「外はお天気がいいんですよ」などの声掛けを心掛けていました。その翌日の夜に静かに息を引き取られました。ご入居当初は一緒に台所に立って食事を作って頂いたり、喫茶店に出かけたり。お風呂が大嫌いな方で、何とか入って頂きたいと奮闘した日々が懐かしく思い出されます。お風呂に入った後はいつも「ありがとね」の言葉に変わり、良かったと思ったものでした。ご家族の支えもあり、人生の最後に関わらせて頂きました。安心して過ごして頂けたかしらと思いながらの年の瀬です。

クリスマス会の様子



今年のクリスマス会も、昨年に続き音楽療法士の吉川さんに来て頂きました。楽しいクリスマスソングや懐かしい童謡を鈴やハンドベルを使いながらのひと時となりました。そのあとサンタさんが登場。一緒にクリスマスケーキを食べて頂きました。



11月はクリスマスの飾り作りを行って頂きましたよ。

